

権助の恋

正岡子規

青空文庫

夜半にふと眼をさますと縁側の処でガサガサガタと音がするから、飼犬のブチが眠られないで箱の中で騒いで居るのであるうと思つて見たが、どうもそうでない。音の工合が犬ばかりでもないようだ。きつと曲くせもの者が忍びこんだのに違いない。犬に吠えられないように握飯でも喰わして居るのだろう、一つ驚かしてやろうと、考えて居る内、忽ちすさまじい音がして、犬は死物狂いの声を出して逃出したようであつた。「誰だ」ト内からいうと少しあわてた声で「犬だ犬だ」トいう。「変だナ犬だ犬だなんて、誰だヨそこに居るのは誰だ」。 「ナニ犬だヨ」。 「オヤまだあんな事いつてる、犬だ犬だというのは誰だというのだヨ」。 「ナニ犬だヨ」。 「オヤおかしいネ、犬が口きくかい、その口きいて居るのは誰だヨ」。 「ナニ犬の代理だよ」。 「オヤ犬の代理だと、いよいよおかしいネ、誰だよ、犬の代理なんかして居るのは」。 「権助でがすヨ」。 「権助かい、権助なら権助と早くいえば善いじゃないか、犬だ犬だなんて」。 「だつて間がわるいでがすヨ」。 「間がわるい、なぜ間がわるいのだヨ」。 「あんだつて間がわるいでがすヨ」。 「変だねエ、お前そこで何して居たのだヨ」。 「白状しますべいか」。 「白状する、何を白状するのだ、何か知らないが悪い事があるなら白状するが善い」。 「実は夜べえに来たでがすヨ」。 「夜這に来た、

夜這に来たツておれのうちに女気は一人も半分もないじゃないか」。 「十二あるですがすヨ」。 「変な事いうネ、おれの女房は三年前に死んだし、娘は持たず、お三どんだツて置かないのはお前も知ってる通りだろうじやないか」。 「なんといわしつても可愛い可愛い娘ツ子があるから仕方がねエだヨ」。 「娘ツ子がある、どんな娘ツ子がある」。 「ソレ顔の黒い、手足の白い、背中が黒くつて腹が白くツて」。 「オヤ変な娘ツ子だネ、そうしてその娘ツ子がおとなしくなびいたかい」。 「イヤしくじつたですがすヨ、尻尾をひツつかまえると驚いて吠^ほえただからネ」。

〔月日不詳〕

青空文庫情報

底本：「飯待つ間」岩波文庫、岩波書店

1985（昭和60）年3月18日第1刷発行

2001（平成13）年11月7日第10刷発行

底本の親本：「子規全集 第十二巻」講談社

1975（昭和50）年10月刊

※底本では、表題の下に「〔署名不詳〕」と記載されています。

入力：ゆうき

校正：noriko saito

2010年4月22日作成

2011年5月11日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

権助の恋

正岡子規

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>